



QRコードを、スマートフォンなどのカメラで読み込むことで、各委員会の報告動画を視聴できます。

議会活性化推進会議（9月末時点）

○議会モニター制度導入推進チームから

議会モニターワークショップにぜひご参加ください。詳しくは今号の特集ページをご覧ください。

○議会ICT推進チームから

「ペーパーレス化に向けたタブレット端末導入」という目標を掲げ、他市町村議会の事例を基に、本町議会に適した導入・活用方法を協議しています。

また、今期から「LINE WORKS」を活用し、議員のスマートフォンやPCを用いて、簡単に意見交換や資料共有、スケジュール管理、オンラインミーティングなどができ、議会活動の効率化を図っています。

タブレット端末導入については、行政との連携が不可欠なため、拙速な導入はせず、慎重に議論を深め、できるだけ早い導入を目指します。

タブレット端末導入に限らず、より効率的な議会運営について、さまざまなツールの活用についても調査し、議会運営に反映していきたいと考えています。

○議会BCP策定推進チームから

議会BCP計画とは、感染症の大流行や大規模災害の発生時でも議会機能を維持するための事業継続計画（Business continuity planning）のことです。

策定に向けて、議員間の勉強会や先進事例の調査、確認を行っています。



広報広聴常任委員会



〈委員会構成〉
委員長 深瀬美奈子
副委員長 工藤 健
委員 議員全員
（広聴班）

〈近況報告〉

○議会報告会

7月20日にゆめりあで開催しました。今期の議会の活動方針について、議会活動基本計画を基に説明しました。

○かたるベサロンニュースの発行

「かたるベサロンでの意見を住民にも共有してほしい」というご意見があり、作成しました。

町内会の回覧板に添付されますので、ぜひご覧ください。



〈今後の方針〉

○かたるベサロン

11月18日18時30分から20時まで、改善センターみらいえで開催します。ぜひお越しください。

○くるま座ミーティング

10月から11月にかけて、行政区ごとに特定のテーマについて協議する「くるま座ミーティング」を開催しています。

詳しい情報は議会ホームページもしくは、議会事務局にお問い合わせください。



議会活性化推進会議始動！

※第3回定例会以降、委員会構成が一部変更となりました。

経済文教常任委員会



〈委員会構成〉
委員長 大島 光敬
副委員長 深瀬美奈子
委員 工藤 健
委員 鈴木 康裕
委員 西内 陽美

〈近況報告〉

常任委員会（8月28日開催）

調査事項 「基幹水利施設管理事業総富地頭首工について」
令和6年度から基幹水利施設管理となる総富地頭首工について、視察し説明を受けました。

調査結果

現在の水利施設管理強化よりも基幹水利施設管理となることで、国からの補助率が上がるとの説明がありました。この頭首工は「流域治水対策に位置付けられた施設」に該当し、流域の洪水被害を緩和させる事ができる施設となっております。今後当委員会としては、その他の基幹水利施設も随時視察させていただき、課題等があれば共有していきたいと思っております。

報告事項 「冬季間のスクールバス乗車対象者の拡大について」

教育委員会から、現在対象外のみどり区および橋本区に居住する小学校1年生から3年生までの児童を、新たに冬季間乗車を認める方針であるとの報告を受けました。除雪終了後に降雪があった場合、新津川橋を渡っての登校に不安があることから、通学時の安全性を確保するためという理由です。なお、国道の朝の除雪時間については、R4年12月とR5年7月に国（北海道開発局）に対し、配慮を要望しているとのことでした。

〈今後の方針〉

教育委員会からは、全国学力・学習状況調査結果について、産業振興課からは農作物の生育状況や農業体験の受け入れについて、報告がありました。全国学力・学習状況調査についてはテスト結果を踏まえた対策、農作物の生育状況については猛暑が続いたことによる農作物への影響等など、今後への対策の有無などを注視していきます。



総務民生常任委員会



〈委員会構成〉
委員長 加藤 敏晃
副委員長 三師 優美
委員 杉本 初美
委員 樋坂 里子
委員 西内 陽美

〈近況報告〉

常任委員会（8月25日開催）

調査事項 「地域の子育て支援ネットワークについて」

町内における子育て支援関係機関の全体像や、それぞれの機関との連携の状況について調査しました。

調査結果

子育て世帯が抱える問題は、障がい者や高齢者の介護など、子育て以外の問題も全国的に増えていることから、関係機関の連携先は今後ますます増えていくものと予想され、民間事業者との連携も重要だと感じました。今後は、町の連携相手について掘り下げ、調査を進めます。

報告事項 「滝新線の減便と、費用負担について」

路線の収支の悪化と運転手不足の深刻化を理由とした、平日の滝新線の減便と費用負担の発生について説明を受けました。

減便は、R5年度12月1日から開始予定であり、これまで60分に1便だったものが、およそ90分に1便の運行になるイメージです。また、一部の便で運行経路を変更し、滝川市のイースタウンに直接行けるようにする計画をしています。

費用負担は、R5年10月以降の運行から、費用の一部を滝川市と共に負担することになります。

〈今後の方針〉

地域公共交通が地域の皆さんにとってなるべく使いやすいものになるよう、滝新線との乗り継ぎや町内線の運行について、注視していきます。

